



学びの直送便

今年の夏は例年以上に暑い夏となりました。今回の「学びの直送便」では「夏の学び」として、北部研修所で実施した「小学校実技どんとこい講座」や日々の実践につながる特別支援講座、コミュニケーション講座を紹介します。

実習・実技もどんとこい！自信を持って授業づくり！

「小学校実技どんとこい！理科&図画工作科講座」・「小学校実技どんとこい！音楽科&家庭科講座」【8/3】

《音楽科》



コードネームを基にした
簡単なピアノ伴奏を
スモールステップで学ぶ

北部研修所では8月3日に「小学校実技どんとこい！」講座を実施しました。

コンセプトは「**実技や実習、観察・実験などに困難を感じている小学校教諭が、実技基礎講座の中で技能を習得して授業づくりに生かす、一日で二度おいしい講座**」です。一日に2教科を学ぶことでセンターに通っていただく負担を軽減するとともに、効果的に学ぶことができるように2教科ずつをセットにした2講座です。

《家庭科》



裁縫用具と
ミシンの扱い方について
スモールステップで学ぶ

《理科》



顕微鏡や駒込ピペットなど、
観察・実験に欠かせない器具の
基本的な取り扱い方を学ぶ

受講者の感想から

- ◇ 苦手感じていたが、楽しく学ぶ方法を知った。さっそく2学期に取り入れたい。
- ◇ 説明だけ読んででもできないことが、聞いて、見て、やってみて分かった。
- ◇ 丁寧にすること、準備に時間をかけることが大切だと分かった。

《図画工作科》



自分の作りたい色や形を
生み出す方法について学ぶ

社会との接続を意識した支援の在り方

特別支援教育「成人期を見通した高校支援」講座
－大学の支援現場から学ぶ－【8/21】

京都大学 村田淳 准教授
京都大学 学生総合支援センター障害学生支援ルーム
横山弘和 専門スタッフ

障害のある学生の支援を担当されている京都大学准教授の村田先生を講師に招き、履修登録や授業での支援、試験や評価の際の配慮など大学の現状について御講義いただきました。その中で一番の課題が「**進路のミスマッチ**」であるなど、**生徒の自己理解の重要性**についても御講義いただき、日々の進路指導等につながる学びとなりました。また、支援を通じて社会に接続していくことにつながる「**+αの支援**」の必要性についても学びました。

後半は京都大学学生総合支援センター障害学生支援ルームの専門スタッフで自身も発達障害者である横山氏に「本人が求める支援」について御講義いただきました。どのように支援をすればよいかを周囲の人が考えるだけでなく、**本人が自分の障害を知り、自分自身をマネジメントして適切に支援を求める等**、「社会参加のための支援」の重要性を学びました。



村田淳先生 横山弘和氏

「+αの支援」とは…

履修登録や授業での支援、試験や評価の配慮などの**修学支援** + 接続先の**社会での姿**をイメージし、個々の学生のニーズに応じた支援

見直そう、日常のコミュニケーション

コミュニケーション講座Ⅰ－職場実践に生かす－（企業連携）
【8/22】

コンサルタントネットワーク株式会社 本田祐美 取締役副社長

総合教育センターではコミュニケーション分野を中心に、民間企業が持つ優れたノウハウを活用した企業連携講座を実施しています。本講座ではコンサルタントネットワーク株式会社の本田取締役副社長をお招きし、演習を通して職場での様々なコミュニケーションについて振り返りました。



本田祐美取締役副社長

第一印象を決める要因は表情

子どもたちが話しかけにくい表情を
していませんか？

無理につくり笑いをしなくても
微笑むだけで好印象を与えます。
ポイントは「**口角アップ**」！

相手を意識した発声・滑舌

普段の会話も授業同様に聞き取り
やすい話し方ができていますか？

明確な発声・滑舌でコミュニケーションの
様々なミスを防ぐことができます。

傾聴を妨げる「同時作業」

児童生徒の話にきちんと向き合
っていますか？

「同時作業」は情報を取捨選択す
る能力などが低下します。**手を止
めて聴くことに集中**しましょう。

対応は最初が肝心

学校組織としての対応が
できていますか？

最初に連絡を受ける人が、関わり
のある人とは限りません。**最初の
親身な対応**が重要です。

特集：新しい高等学校学習指導要領を読み解く！

2018年3月30日に公示された高等学校学習指導要領は、2022年4月1日から年次進行により段階的に適用されます。今回はいくつかのキーワードをもとに、新しい学習指導要領を読み解いていきます。

3つの基本方針

今回の学習指導要領の改訂は3つの基本方針に基づいて行われています。

- ① **育成を目指す資質・能力の明確化**
- ② **「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進**
- ③ **各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進**

「主体的・対話的で深い学び」

生涯にわたって探究を深める未来の創り手の育成のため「**主体的・対話的で深い学び**」が求められています。

また、学習の評価については小・中・高等学校の各教科を通じて「**知識・技能**」「**思考・判断・表現**」「**主体的に学習に取り組む態度**」の3観点に整理することが提言されています。

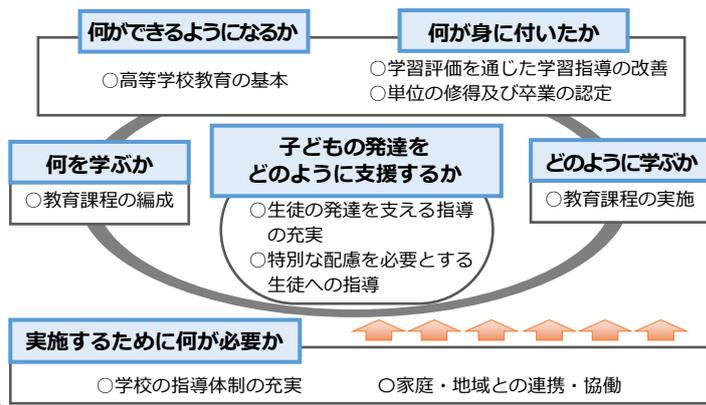
- 学ぶことに興味や関心を持ち、キャリア形成の方向性と関連付けながら、学習を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」
- 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」
- 習得・活用・探究という学びの中で「**見方・考え**」方を働かせながら、問題を見だし解決策を考える等の「**深い学び**」

- 学力の3要素
- 知識及び技能
- 思考力・判断力・表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」

予測困難な未来社会の担い手となる今の子どもたちには、個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されています。その中で、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有した「**社会に開かれた教育課程**」の実現が求められています。

そのために、学習指導要領が「**学びの地図**」としての役割を果たせるよう、下図のように6点にわたってその枠組みを改善するとともに、各学校において教育課程の改善・充実の好循環を生み出す「**カリキュラム・マネジメント**」の推進が求められています。



高大接続

高等学校において育成した「**学力の3要素**」の更なる伸長を図るために大学教育の改革も求められています。

また、2020年度から導入される「**大学入学共通テスト**」では、知識・技能や思考力・判断力・表現力がどの程度身に付いたかを問うことをねらいとしており、中でも思考力・判断力・表現力が一層重視されています。

高等学校教育改革

- 《「**学力の3要素**」の確実な育成》
- ☑ 教育課程の見直し
- ☑ 学習・指導方法の改善と教員の資質能力の向上
- ☑ 多面的な評価の推進

大学教育改革

- 《「**学力の3要素**」の更なる伸長》
- ☑ 「三つの方針」に基づく大学教育の質的転換
- ☑ 認証評価制度の改善

大学入学者選抜改革

- 《「**学力の3要素**」の多面的・総合的評価》
- ☑ 「大学入学共通テスト」の導入
- ☑ 個別入学者選抜の改革
- ☑ 「入学者受入れの方針」に基づき「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜に改善

※「三つの方針」 … 「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」

詳細はこちら！

平成30年度高等学校
新教育課程説明会（中央説明会）
における文部科学省説明資料



連載「カリキュラム・マネジメントのススメ」第3回

学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの「3つの側面」

学校の教育目標の実現に向けて、学習活動の教育効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」。前回までは基本的な考え方や流れを紹介してきましたが、今回は「どのように取り組むか？」について紹介します。

右の図は中央教育審議会で述べられている「**カリキュラム・マネジメントの3つの側面**」を示したものです。

この3つの側面をすべて満たす必要がある、というわけではありませんが、学習活動と学校教育目標のつながりを考慮し、教育効果を高めるためには、それぞれ必要な視点と言えます。

様々な学校行事、学習活動が集中しやすい二学期。「3つの側面」の視点からそれぞれの取組を見直して改善を図り、カリキュラム・マネジメントの実現につなげるとともに、日々の実践のセルフマネジメントにも活用してみてください。

教科横断的な教育活動

各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた**教科横断的な視点**で、その目標の達成に必要な教育の内容を**組織的に配列**していくこと。



PDCAサイクルの確立

教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する**調査や各種データ等に基づき**、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る**一連のPDCAサイクルを確立**すること。

人的・物的資源の効果的な配置

教育内容と、教育活動に必要な**人的・物的資源**等を、地域等の**外部の資源も含めて**活用しながら効果的に組み合わせること。